

Sharingする共通まちづくり(理念・目標)

近年、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)によるIT情報の共有をはじめ、シェアハウス、オフィスシェアリング、カーシェアリング、ワークシェアリング等による空間やモノ、生活の共有化(シェア)が目覚ましく進展しています。それは、多様化した社会文化の中で、人々が求める機能性と共有性から生まれてきたものだと思います。しかし、本来の共有は、近隣関係における地域コミュニティにあったことを再考できるのだと考えます。共有関係のある暮らしとして、「向う三軒両隣」「地縁意識」「町内会交流」等は、地域での協働関係から育てられてきました。それは、時代や環境が変わっても同様であり、社会や経済、家族、まち、未来を互いに共有/シェア(Sharing)・共感・共有・共同・協同・共生(共有)できる、まちの姿を求めていくことに共感はあると思います。

本書は、「Sharing(共有)する文化」を核とした文化機能として提案し、街で共有される街路・広場・空間・コミュニティ・福祉・環境など多面的な観点から、10-20年の時を経て、シェア機能が持つべき次の世代のまちづくりとしてあります。共有化を推進するまちづくり「Ogikubo Sharing」は、住民主体の地域運営組織(シェアフレンドシップ)により、地域交流・環境整備・生活支援・活動資金・情報文化として「分かち合う未来」づくりを行います。展開するプログラムとして「Town Sharing:まちなみ形成」「Community Sharing:文化形成」「Life Sharing:生活環境形成」を本編として、読者の新たなライフスタイルを提示します。

1) Town Sharingは、共有する領域を育てることで、地域デザインとして街路・街区・まちなみ・交通を再整備し、シェア・ステーション(駅広場)を拠点とした回遊性・昇降空間づくりを育てます。2) Community Sharingは、読者のまちとして仲間づくりや活動交流支援などアクティブな暮らしを地域住民と共有しながら成長しつづけます。3) Life Sharingは、社会福祉や地域環境、住まいづくりなど私たちの生活基盤である地域共有のあるべき生活を支える関係性を育てます。

これらのシェア活動によって読者の地域環境は、私たちのシェアするコミュニケーション文化により、多様な希望や期待をもてる暮らしづくりが形成出来るものと思います。

共有する共通(まち・人・時間)

*南北をつなぐコミュニティデッキ
 *駅前広場・広場による回遊性空間づくり
 *都市居住による新たなライフスタイル
 *「シェア」による新たな読者文化の形成
 *シェアによる地域活性と生活向上
 *子ども・高齢者に対する福祉支援
 *共有エネルギーの生産と消費(エコ)
 *シェアによる建築空間の再生整備
 *サステイナブルなシェア文化の成長

A 教会通り商店街(街らしのシェア)
 読者・近所しながら歩み、商店街は、地域市況と交流する暮らしの場として再生します。

B 知る区ドロー(緑路のシェア)**C 共有する住まい(居住のシェア)**
 職でつながる散歩道づくり、緑や花を歩行空間に育て、自然に溢れる緑を共有しています。

D まちのパーティオ(広場のシェア)
 街路の再生により、広場の空間を育てます。交流活動・憩いの場、憩いの場を共有しています。

E 暮らしガーデン(共有庭園のシェア)
 共有庭として、菜園や花壇、ふれあいコート・風雨廊、暮らしの交流拠点として育てられます。

F 地域の居場所(記憶のシェア)
 伝承文化を受け継ぎ、多世代交流によるふれあいは、時間を共有し、記憶の絆を深めます。

まちを形成する 街路・広場・拠点・景観・交通のシェアする都市デザイン(地域再生)

まちを共有する都市デザイン(街路・街区・広場・交通・拠点・記憶)を形成します。公共的領域と私的領域の境界を越える「シェア領域」を新たなデザインルールとして設け、回遊性のある歩行空間・細街路(路地)や展開する広場の形成、建築の再生を行いながら、ネットワークするまちの共有スペースを創ります。

●南北を繋ぐ新たなステージ(拠点)づくり <繋がる読者文化:シェアリング・ステーション>
 読者の新たな活動拠点として駅周辺環境を再生します。南北を繋ぐ大きなデッキステージ(シェア広場)を設け、ホームの上部は、モノ・活動・情報共有の中心として創ります。それに伴い、駅周辺の建築群は再生・改修・駅前広場やコミュニティ教室等が生まれ、市民の思いの核として成長します。

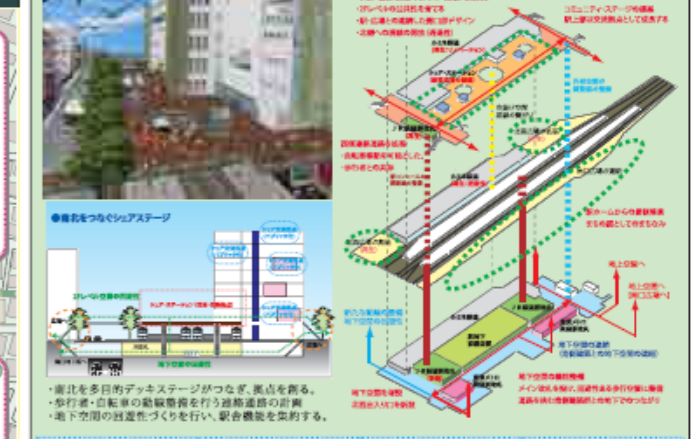
読者をシェアする 共有するまちづくり「Ogikubo Sharing」を地域運営する(基盤形成)

シェアする文化を育てる地域運営・協働・継承・絆 Ogikubo Sharing/地域・時・人・モノ・自然・くらしを共有

Town Sharing まちなみ形成
 共有するまちづくり(理念・目標)

Community Sharing 文化形成
 読者のまちづくり(理念・目標)

Life Sharing 生活環境形成
 共有するまちづくり(理念・目標)



文化を育成する 共有文化が、新たな活動・交流を育むカタチへ成長する(地域発酵)

読者の新たな文化として「読者文化」を育む。共有文化が、新たな活動・交流を育むカタチへ成長する(地域発酵)

読者の新たな文化として「読者文化」を育む。共有文化が、新たな活動・交流を育むカタチへ成長する(地域発酵)



まちを結ぶ散策路(街路・路地)の回遊性づくり <広がる街路:シェアリング・ストリート>

商店街や高層ビルは、地域住民の交流やふれあいの場です。北部住宅密集市街地をはじめ、自動車と歩行者の整備がされない「通りや4m未満の狭い道路が多く存在し、回遊性(ネットワーク)を育てるため、細街路(新設)や通り口、散策路による回遊性を用い、建物の在り方と共に、敷地や空間のシェアを行います。そして、読者やまちの人、モノによる回遊性がまちを創ります。

●南北を繋ぐ新たなステージ(拠点)づくり <繋がる読者文化:シェアリング・ステーション>
 読者の新たな活動拠点として駅周辺環境を再生します。南北を繋ぐ大きなデッキステージ(シェア広場)を設け、ホームの上部は、モノ・活動・情報共有の中心として創ります。それに伴い、駅周辺の建築群は再生・改修・駅前広場やコミュニティ教室等が生まれ、市民の思いの核として成長します。

生活と対話する 共有生活の中で、福祉・環境を支える生活支援づくり(生活活性)

読者の生活は、福祉(子ども・高齢者・親子・障害者・外国人)や環境、防災、健康、読者、生涯学習などの暮らしの機能を共に支える仕組みを育てます。地域住民と生活をシェアするで、育まれる地域社会の絆は、読者の多世代交流(生活コミュニティ)を育みます。

生活と対話する 共有生活の中で、福祉・環境を支える生活支援づくり(生活活性)

読者の生活は、福祉(子ども・高齢者・親子・障害者・外国人)や環境、防災、健康、読者、生涯学習などの暮らしの機能を共に支える仕組みを育てます。地域住民と生活をシェアするで、育まれる地域社会の絆は、読者の多世代交流(生活コミュニティ)を育みます。

未来へ継承する まちとシェアするアクティブな住まいを提案する(まちながる住)

シェアする住まい環境は、今日の多様なライフスタイルに対応し、まちと共有する中で新たな住まいづくりを育てます。シェアハウスは建築の際に耐震だけでなく、「仲間・友人」「読者」「読者」「読者」「読者」など、読者のまちのストックや文化と交流しながら生活環境が、まち・住まいにアクティビティを創ります。また、シェアを越えた関係が読者に住まう地域住民とのまちの絆として成長します。

生活と対話する 共有生活の中で、福祉・環境を支える生活支援づくり(生活活性)

読者の生活は、福祉(子ども・高齢者・親子・障害者・外国人)や環境、防災、健康、読者、生涯学習などの暮らしの機能を共に支える仕組みを育てます。地域住民と生活をシェアするで、育まれる地域社会の絆は、読者の多世代交流(生活コミュニティ)を育みます。

生活と対話する 共有生活の中で、福祉・環境を支える生活支援づくり(生活活性)

読者の生活は、福祉(子ども・高齢者・親子・障害者・外国人)や環境、防災、健康、読者、生涯学習などの暮らしの機能を共に支える仕組みを育てます。地域住民と生活をシェアするで、育まれる地域社会の絆は、読者の多世代交流(生活コミュニティ)を育みます。

未来へ継承する まちとシェアするアクティブな住まいを提案する(まちながる住)

シェアする住まい環境は、今日の多様なライフスタイルに対応し、まちと共有する中で新たな住まいづくりを育てます。シェアハウスは建築の際に耐震だけでなく、「仲間・友人」「読者」「読者」「読者」「読者」など、読者のまちのストックや文化と交流しながら生活環境が、まち・住まいにアクティビティを創ります。また、シェアを越えた関係が読者に住まう地域住民とのまちの絆として成長します。